

庁舎・窓口施設等

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
市庁舎、市民センター（6）、連絡所（5）、土木公園サービスセンター、市民フォーラム	<p>○マイナンバー制度の進展やコンビニエンスストアでの証明発行機能の拡大により、行政窓口へ出向く手間が最小限になり、より簡便かつ身近にサービスを受けられるようになる。</p> <p>○行政窓口だけでなく、他のサービスも一度に受けられることができる地域拠点機能を強化する。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>行政手続きにおいて市民の便宜を図るため、市庁舎の他に市民センターや連絡所を設置していますが、必要となる行政手続き内容によって将来の施設のあり方は大きく変化します。たとえば、マイナンバー制度の進展によって、証明発行件数が少なくなることや、電子による申請が行えるようになることも予想されます。一部証明書の交付も既にコンビニエンスストアで行えるようになっており、将来の姿を見据えた庁舎・窓口施設機能のあり方を見直していくことが課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。 ✓ コンビニエンスストアでの証明書発行機能を拡大し、連絡所と市民センターの集約や廃止を含めた配置と機能のあり方を検討する。 ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。 ✓ 行政サービスや職員数の減少に応じて空いたスペースは、適宜他の用途に転用して有効活用する。

〔memo〕

防災施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
消防器具置場（38）、災害備蓄倉庫（6）	

現状の課題	今後の方向性
<p>「消防組織法」「災害対策基本法」に基づき防災施設を整備しています。火災や災害に備えるためにはいかなる時でも施設が利用できる環境を確保していくことが必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建物は耐用年数まで利用できるよう、必要な施設修繕を計画的に実施し、適切な建替えを行っていく。 ✓ 不足する防災施設は、他の公共施設の余剰スペースや民間倉庫等を活用して確保する。

〔memo〕

文化ホール施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
町田市民ホール、鶴川緑の交流館	<p>○施設運営に民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な観点で管理運営できると同時に、これまで以上に魅力的な付加サービスを提供します。</p> <p>○公共施設に限らず文化芸術に関連した他の施設とのネットワークを形成し、地域との連携強化や町田発の文化芸術の育成を図ります。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>市民の文化向上や福祉の増進等を目的に設置されていますが、一部、集会施設や生涯学習施設などの他機能との機能重複がみられる状況です。ホールは商業利用、一般利用含めて利用率が高い状況ですが、会議室など一部の部屋は比較的利用率が低い状況にあります。施設を有効に活用し、サービスを向上させながら収益性を上げるための検討をしていくことが課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 民間ノウハウを活かした管理運営により、収益性の向上を図る。 ✓ 会議室などの利用率の低い機能は、転用等を含めた見直しを行う。 ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。

{memo}

集会施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
市民センター（6）、コミュニティセンター（7）、市民フォーラム	<p>○複合施設へ機能移転することで、集会機能以外のサービスに触れる機会が生まれ、利便性が高まると同時に、そこでの新たな交流や活動のきっかけが生まれます。</p> <p>○活動や交流が活発になることで、一層の地域コミュニティの強化や高齢者等の健康増進が図られます。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>集会施設では市民の交流や文化活動を支援しています。ただし、一部、文化ホール施設や生涯学習施設などの他機能との機能重複がみられる状況です。また、現状では部屋のタイプや時間帯により利用状況にバラつきがある状況です。サービスレベルの見直しと、管理運営手法の見直し、集約及び複合化による効率的かつ効果的なサービスのあり方の検討が課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用率の低い夜間帯の施設利用のあり方を検討する。 ✓ 集会機能及び集会機能と類似する機能の整理を行い、施設の集約または複合化を図る。 ✓ 施設ごとのサービスのあり方や管理運営手法等を見直す。 ✓ 公平かつ社会環境に適合した受益者負担の適正化を図る。

〔memo〕

その他集会施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
<p>コミュニティセンター忠生、さかいがわ会館、山崎団地集会所、鶴川さるびあ会館、小川農事センター、原町田6丁目若葉会館、さくらんぼホール</p>	

現状の課題	今後の方向性
<p>対象施設は本来地域で所有する施設ですが、例外的に市で所有している施設です。既存施設の耐用年度を迎える契機に方向性の検討を地域に促していくことが課題です。</p>	<p>✓ その他集会施設は、本来地域が所有する施設であるため、今後の施設の修繕や建替の方向性については、地域で検討及び判断し、地域で維持管理していく。また、その実現のための支援の方法を検討する。</p>

{memo}

図書館

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
図書館（8）	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館機能を学校をはじめとした地域の活動拠点に移転することで、より多くの人々が図書に触れる機会を創出します。 ○地域の活動拠点では他機能と連携し市民の活力を活かした、図書に関連した新たなサービスが創出されます。

現状の課題	今後の方向性
<p>図書館サービスは行政で確保していく必要性が高いサービスですが、一部の図書館は配置が近接しており集約の検討が可能です。また、貸出冊数は予約資料受け渡し分は増加傾向にありますが、貸出冊数総数は減少傾向にあります。サービスの利便性向上だけでなく、多くの人々が図書に触れる機会を新たに創出できるかが課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ さるびあ図書館及び鶴川図書館は配置が近接している中央図書館及び鶴川駅前図書館へ集約を検討する。 ✓ 複合施設でない地域館は周辺学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。 ✓ 効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討する。

{memo}

美術館・博物館等

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
国際版画美術館、市立博物館、本町田遺跡公園多目的施設、町田市民文学館ことばらんど、自由民権資料館、町田市考古資料室、ふるさと農具館	<p>○町田市の文化や歴史を伝える資料の集約により、より魅力的な展示をすることができ、多くの人が文化や歴史に触れる機会を提供することで、市民の市への愛着の醸成、教育、生涯学習などに寄与していきます。</p> <p>○アウトリーチ展示によって、特定の施設だけではない場所で文化に触れる機会が増えます。</p> <p>○国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、公園の空間や賑わいと一体となった文化・芸術活動の拠点となっており、魅力的な展示やイベントを開催することで市内外から多くの人が集まります。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>都心部や近隣他市には民間や自治体の設立した美術館・博物館が多数開館していますが、町田市の文化や歴史を調査・研究し、資料の収集及び保存・展示をしているのは主に市営の施設です。維持管理費については、展示や収集の他に資料の調査や保存・管理費等を含むため、利用者1人あたりの費用が他機能に比べて高くなる傾向にあり、運営方法を見直していく必要があります。また、各施設の利用者数は横ばいか増加傾向にありますが、考古資料室ではアウトリーチ展示のほうが見学者が多いことなどを勘案すると、他施設においても展示のあり方、機能の見直しについて検討することも必要です。収蔵品については、施設によって同種の資料が分散して保存されているため、収蔵場所を見直し、収蔵品のさらなる活用を検討することも課題です。また、文学館の集会機能は、町田駅周辺にある施設への集約化を検討することも課題です。</p>	<p>✓ 町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ、収蔵庫については既存施設を活用して集約化を図り維持管理コストを削減する。また、展示スペースの集約化を検討するとともに展示機能の魅力向上を図る。展示については施設間協力などをすすめ、アウトリーチ展示も検討する。</p> <p>✓ 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、他施設からのアウトリーチによる展示などの受け皿として活用を検討する。</p>

{memo}

生涯学習施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
生涯学習センター、生涯学習センター陶芸スタジオ	<p>○生涯学習センターを生涯学習拠点に据えながら、地域への事業展開により、これまで以上に身近な場所で生涯学習に触れることができます。</p> <p>○生涯学習センターの建物をこれまで以上に多機能に活用し、中心市街地の活動拠点となります。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>生涯学習センターは、人々が集い・学び・交流する社会教育・生涯学習の拠点です。学習活動を総合的に支援するため様々な事業を実施するとともに、生涯学習に関わる情報発信を行っています。また、学習施設として多く活用されているほか集会機能としての活用もされていることから施設全体の利用率が非常に高い状況です。その一方、より身近な地域で学習を行うための事業を展開していくことや、学習を通して得た知識や技能を地域で活かす仕組みづくりが課題です。陶芸スタジオは利用者が限定されており、陶芸の活動以外の活用は行っておらずサービスそのもののあり方も見直す必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域での事業展開を強化し実施する。 ✓ 生涯学習センターは生涯学習機能だけではなく、中心市街地における集会機能としての役割も大きいことから、学習活動に限定しない施設として再編を検討する。 ✓ 陶芸教室は終了を検討する。

{memo}

その他展示等施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
町田市フォトサロン、旧荻野家住宅、旧永井家住宅、 村野常右衛門生家	

現状の課題	今後の方向性
<p>フォトサロンは、写真家・秋山庄太郎氏の写真館として開館しましたが、現在は、秋山氏の写真はなく、写真専用の貸し展示スペースとなっています。写真の展示は、貸し展示スペースがあれば他の施設でも代替が可能です。</p> <p>旧家はそれぞれ、旧永井家住宅が国指定重要文化財、旧荻野家住宅が都指定有形文化財、村野常右衛門生家が町田市指定有形文化財に指定されており、代替が不可能な施設です。</p>	<p>✓ 建物は、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、転用・活用する。貸し展示スペースは他施設で代替し、建替えは行わない。</p> <p>✓ 旧家は適切に維持保全していく。</p>

{memo}

学校

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
小学校（42）、中学校（20）	○児童・生徒数の減少に併せて適正な学校規模を維持するとともに、地域の拠点となり、多世代で多様な人々の交流や公益的なサービスが展開される場としていきます。

現状の課題	今後の方向性
<p>公立学校の教育施設として必要不可欠であり、今後も適切に維持していく必要がありますが、高度成長期に整備された大半の施設が一斉に老朽化し建替えの時期を迎えることが見込まれています。建物の長寿命化を図るためには、築40年前後で大規模な改修が必須であり、計画的に施設の更新を進める必要があります。また、屋外プールや給食室についても老朽化が著しいことから、学校施設の在り方や更新についての抜本的な検討、対応が必要です。なお、町田市の人口推計では、今後40年間で、年少人口が約1万9千人減少することが想定されており、建替えや改修にあたっては、適正規模・適正配置の観点を踏まえるとともに、地域の身近な公共施設、地域の拠点となるような学校の実現に向けた検討が課題となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建物の大規模改修や建替えを計画的に実施する。 ✓ 段階的に必要な適正規模・適正配置を実施する。 ✓ 教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。 ✓ 教室の未利用時間の積極的な活用を図る。

〔memo〕

その他教育施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
教育センター、旧忠生第六小学校	

現状の課題	今後の方向性
<p>教育センターは教育の質の維持や不登校児童の支援を行う行政関与の必要性が高い施設ですが、廃校を1校そのまま利用しているため、用途に対して部屋が広すぎたり、稼働率の低い部屋がある等スペースの使い方が非効率になっています。また、研修室や会議室、科学センターなどは他の公共施設での代替が可能です。施設の大規模改修や建替えの際には必要な施設規模の検討が課題です。</p> <p>旧忠生第六小学校は木曾山崎団地地区まちづくり構想において健康増進関連拠点としての活用が位置付けられており、民間活力による施設活用が課題となっています。一方で、耐震改修が未実施なため、全ての棟を活用しようとする多額の費用が必要になります。</p>	<p>✓ 教育センターは利用面積を圧縮し、空いたスペースを現在行っている主な事業と親和性のある他機能の受け皿として利用する。複合化する機能が無い場合は、大規模改修や建替えの際に施設規模を縮小する。</p> <p>✓ 旧忠生第六小学校は民間活力による効果的・効率的な施設活用を検討する。</p>

〔memo〕

医療施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
市民病院、旧町田市立看護専門学校	

現状の課題	今後の方向性
<p>市民病院は採算性の面から民間医療機関では提供困難な医療を提供しています。特に高度急性期病床を保有する民間病院は市内に無く、地域医療の確保が求められています。また、市民病院は地方公営企業として運営予算を市の特別会計から支出しています。良好な医療環境の維持のため、適切な財政運営による施設管理を行っていくことが課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。 ✓ 建物の改修や建替えの際はPFI等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。

〔memo〕

高齢者福祉センター

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
ふれあい館（6）	<p>○専用（固定）の施設によるサービス提供から、建物とサービスを切り離し、ソフト化を図ることで、より多くの場所でサービスを展開し、行動範囲が狭くなりがちな高齢者の方が、より身近な場所でサービスを受給できる機会を増やします。</p> <p>○高齢者の居場所づくりについても「高齢者」に限定した居場所ではなく、高齢者を含めた多様な世代・目的の方が集える場へ転換することで、人と人との交流やつながりを促します。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>高齢者人口は増加していますが、ふれあい館の利用者は近年横ばいであり、利用者数は60歳以上人口の約2%にとどまっています。高齢者事業に求められることも変化していると考えられ、内容の見直しが課題です。現在、ふれあい館内で行っている事業については、特定の施設にとどまらず、集会施設など他の公共施設を活用しながら、より身近な場所で展開していくことが可能です。</p>	<p>✓ 高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。</p> <p>✓ 高齢者専用施設は建物の建替えは行わない。</p>

{memo}

その他高齢者福祉施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
<p>デイサービス（9）、高齢者在宅サービスセンター（2）、成瀬あおぞら会館、わくわくプラザ町田</p>	

現状の課題	今後の方向性
<p>高齢者の増加や民間事業者の多様化により、行政に求められることも変化しています。わくわくプラザの集会機能利用や成瀬あおぞら会館で行っている介護予防事業は、特定の施設にとどまらず、集会施設など他の公共施設を活用しながら、より身近な場所で展開していくことが可能です。また、民間のデイサービスの数は年々増えており、現在、市内に128ヶ所あるため、代替性が高いといえます。</p>	<p>✓ デイサービス、在宅サービスセンターは賃貸借化、譲渡等を含めたあり方を検討する。 ✓ わくわくプラザと成瀬あおぞら会館は、他の公共施設と複合化し単独機能での建替えは行わない。</p>

{memo}

障がい福祉施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
町田刈ア園、町田リス園、大賀藕絲館、町田市授産センター、ひかり療育園、わさびだ療育園、グループホームはるかぜ、町田ゆめ工房、こころみ、町田市せりがや会館、木曽福祉サービスセンター	○公共や民間の施設に関わらず、様々な場面で適切な支援を受けながら、誰もが社会の一員として、ともに育ち、働き、暮らしていくことができます。

現状の課題	今後の方向性
障がい者が、日常生活、社会生活を営むことができるよう、必要な自立支援給付及び地域生活支援事業を総合的かつ計画的に行うことが市町村の責務とされています。障がい者手帳所持者数は、増加しています。また、民間の障がい者の生活介護施設等も増加してきており、自治体でしか担えない事業に力を入れていく必要があります。	✓ 施設の譲渡を含め、民間活力の活用策を検討する。また、民間の運営する施設への代替性がある施設については廃止する。

{memo}

保健施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
保健所中町庁舎、健康福社会館、保健センター (2)	<p>○健康福社会館と保健所中町庁舎の施設集約化により、保健所機能の集中化が図られ、ワンストップサービスによる利便性を高めます。</p> <p>○施設の集約により、初期救急提供体制の検討等、医療と保健の連携強化が図られます。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>保健所政令市として保健所を設置する義務があります。現在市には町田市保健所中町庁舎及び町田市健康福社会館のほか、保健センター2箇所が配置されていますが、保健所中町庁舎と健康福社会館は近接した施設であり、集約を検討していくことが課題です。また健診事業においては、実施におけるコスト等の課題がありますが、巡回健診による実施の可能性を検討する必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 診療所の区画外を、診療所の事業に支障のない範囲で有効活用する。 ✓ 建物の建替え時期を捉えて、健康福社会館と保健所中町庁舎を集約化する。 ✓ 健診事業等の巡回健診実施の可能性を検討する。

{memo}

市営住宅

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
市営住宅（6）、シルバーピア（2）	

現状の課題	今後の方向性
公営住宅法に基づき整備している市営住宅は適切な確保が求められますが、人口減少や高齢化などの社会状況の変化に適応した住宅供給に見直していくことが課題です。	✓ 建物の大規模改修や建替えの際は、人口や低額所得者数の動向に合わせて、施設を適正な規模に縮小する。

〔memo〕

--

保育園・児童発達支援センター

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
保育園（5）、すみれ会館	○学校に複合化し、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実することで、保育園を更に魅力的で利便性の高い地域の子育ての拠点としていきます。

現状の課題	今後の方向性
<p>地域子育て相談センターを併設する5つの市立保育園は市が地域全体の子育てを支援する場として、また様々な子ども施策を進める際の手段として維持する必要があります。一方で保育需要としては3～5歳児はすでに定員割れの園が出てきており、中長期的には年少人口の減少からさらに定員割れの保育園が出てくると予想され、市立保育園としては施設規模の縮小を視野に入れた更新が求められます。</p> <p>すみれ教室は、障がい児に関する施策を総合的かつ計画的に推進することが求められており、すみれ教室全体の事業の最適化が課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保育園は必要な施設規模に見直し、周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、条件が整ったところから複合化する。 ✓ 建物は単独機能での建替えは行わない。 ✓ すみれ教室は、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。

{memo}

子どもセンター・子どもクラブ

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
子どもセンター（6）、子どもクラブ（2）	○学校等が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する子どもセンターを他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、更に魅力的で利便性の高い子どもの遊び場や居場所・乳幼児の子育ての場としていきます。

現状の課題	今後の方向性
<p>児童の育成と乳幼児の子育てを支援する場として機能しており、基幹型施設である5つの子どもセンターの整備が完了しました。今後は距離が離れていて子どもセンターの利用が困難な中学校区に子どもクラブを整備する予定です。</p> <p>一方で、今後の年少人口の減少や子どもクラブの増設等を踏まえると、現状のままの運営を続けると今後は1施設あたりの利用者数の減少が予想されます。</p> <p>また、児童への遊び場や活動場所の提供については学校等の放課後利用があること、乳幼児の子育て支援の場としては保育園での子育て支援事業があること等を踏まえ、子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら子どもを中心とした様々な交流と協働による魅力的な体験活動を展開していくことが課題です。</p>	<p>✓ 子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら、子どもを中心とした様々な交流と協働による魅力的な体験活動を展開できるようなサービスのあり方を検討する。</p> <p>✓ 子どもセンターは中長期的には周辺の公共施設の更新時期を捉えて複合化し、単独での建物の建替えは行わない。その際、児童が自由に来館し、遊べる環境の確保、セキュリティへの配慮、乳幼児の保護者も利用しやすいようなつくり方に留意する。</p> <p>✓ 子どもクラブの増設は新たな建物を建てる方法だけではなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。また、今後の年少人口の減少を踏まえて、整備費用やその後の維持管理費用が少ない手法や建物の可変性等の工夫を検討する。</p>

〔memo〕

学童保育クラブ

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
学童保育クラブ（41）	○学校が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する学童保育クラブを他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する更に魅力的で利便性の高い児童の育成の場としていきます。

現状の課題	今後の方向性
入会児童数が毎年増加することで施設が狭あい化し、保育スペースの拡大が必要な学童保育クラブが複数あり、全体的にも施設の老朽化が進行しています。管理責任や運営責任を明確化にしつつ、教育活動で使用しない教室の活用や、放課後の教室等の未利用時間の活用を促進し、保育スペースの確保や、老朽化に対応していくことが課題です。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保育スペースが不足する学童保育クラブを拡張する際や、小学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて、校舎内に複合化する。 ✓ 建物は単独機能での建替えは行わない。

{memo}

供給処理施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
境川クリーンセンター、リレーセンターみなみ、南収集事務所、町田リサイクル文化センター、資源化施設、排水浄化センター、町田市剪定枝資源化センター、リサイクル広場まちだ	

現状の課題	今後の方向性
<p>市内で発生する一般廃棄物の処理にあたっては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、2011年に策定された「一般廃棄物資源化基本計画」を踏まえ、減量施策及び施設整備計画を進めています。供給処理施設は、プラントが主であるため、原則として、プラントの更新に合わせて上屋の建て替えを行います。現在、建て替えを予定している町田リサイクル文化センターは、ごみとして処理する量を削減するという方針に基づき策定した「町田市資源循環型施設整備基本計画」のとおり、現在よりも規模を縮小して整備を進めています。また、資源ごみ処理施設は、2016年4月より既存施設であるリレーセンターみなみに設備を追加し、今後新たな施設を2カ所に分散整備予定です。整備・運営については、新たなごみ処理施設整備にあたり実施した「町田市ごみの資源化施設における整備・運営の事業方式検討」の結果を受けて、町田リサイクル文化センターはDBO事業方式、資源ごみ処理施設の整備は公設公営方式で整備することを選定しています。今後は、市民の安全・安心を確保しつつ、長期的な観点でコストダウンを図っていくが課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 町田リサイクル文化センターの建替えは、DBO事業方式により、民間事業者のノウハウを活用し、運営費用の軽減等や更新費用の低減を図る。 ✓ 資源ごみ処理施設の整備は、2地区での施工となることと、用地の取得や関連事業との調整が生じる事より、手続きに関するスケジュールが短期間で柔軟に対応できる公設公営で実施する。 ✓ プラントや建物の維持管理を適切に行い、長期的な観点でコストダウンを図る。

〔memo〕

下水道施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
成瀬クリーンセンター、鶴見川クリーンセンター、鶴川ポンプ場	

現状の課題	今後の方向性
<p>下水道事業を安定的に実施するため、施設を良好な状態で維持する必要があり、適切な耐震対策や老朽化対策が必要です。</p> <p>運営についてもアセットマネジメント（施設資産のマネジメント・資金のマネジメント・人材のマネジメント）により更に効率的で効果的なものにしていくことが課題です。</p> <p>また、2020年に公営企業会計の財務適用を予定しており、これまで以上に経営状況や資産状況が明確化されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資金を計画的に確保し、施設の維持のために必要な改修や修繕を行っていく。 ✓ 運営のコスト削減に向けて、アセットマネジメントを着実に実行する。

{memo}

スポーツ施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
総合体育館、室内プール、サン町田旭体育館、小野路球場、陸上競技場、成瀬クリーンセンターテニスコートクラブハウス、クラブハウス（４）	<p>○地域の活動拠点となる学校でのスポーツ活動が盛んになることで、より多くの人にスポーツに触れる機会を提供する。</p> <p>○施設運営に民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な観点で管理運営できるとの同時に、これまで以上に魅力的な付加サービスを提供する。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>スポーツ施設は、大会利用や多くの市民利用のため利用枠に空きがない状況です。学校の体育館やグラウンド等でも、学校教育に支障のない範囲でスポーツ開放を実施していますが、より多くの市民がスポーツに親しめる環境づくりが求められています。</p> <p>また、施設の運営においては、民間ノウハウを効果的に活用し、収益性を向上させていくことが課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。 ✓ 利用料金の見直しや、民間ノウハウを活かした管理運営等により、収益性を向上させる。 ✓ 学校等、既存施設の効果的な活用を図る。

{memo}

レクリエーション・観光施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
町田自然休暇村、大地沢青少年センター、青少年施設ひなた村、七国山ファーマーズセンター、市民農園管理棟（２）、小野路宿里山交流館	○民間活力の導入や更なる活用により、これまで以上に満足度の高い施設へ転換し、レクリエーションや観光施設として賑わう場としていきます。

現状の課題	今後の方向性
<p>いずれも法律等による設置義務は無い施設であり、相対的に行政関与の必要性が低い施設が多くなっています。利用状況については横ばいで、集客施設の中には低迷している施設も見られます。また、宿泊施設は民間による多様な施設が全国に存在すること、市民農園についても民間が開設・運営するものがあり、代替が可能です。また、自然休暇村、青少年センターは、利用者1人当たり1万円超の費用がかかっています。既に指定管理制度を導入している施設を含め、全ての施設について更に民間の発想やノウハウを取り入れながら集客力を高め、効果的で効率的な運営を実現することが課題です。</p> <p>大地沢青少年センターは土砂災害防止法の特別警戒区域等に指定されたため、施設の抜本的な見直しが必要になっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自然休暇村は収入源確保の取り組みを進める。 ✓ 大地沢青少年センター土砂災害特別警戒区域への指定及び施設老朽化を踏まえ、建物（ハード）及び実施事業（ソフト）の両面から事業を見直す。 ✓ ひなた村は役割を再検討し、事業を見直す。施設の管理・運営については、民間活力の導入や、市民との協働等の手法の検討を進めるなど、新たな付加価値を創出するとともに、効率的な運営を行う。 ✓ ひなた村のホールなどの集会機能は、周辺の学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化し、建物の建替えは行わない。 ✓ 七国山ファーマーズセンターは、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、民間のノウハウを活用することを含め運営方法を検討する。 ✓ 市民農園の休憩室や倉庫は、附帯施設として活用をする。 ✓ 小野路宿里山交流館は、適切に維持管理する。 ✓ 集客施設の建替えや新たな施設整備等をする場合は民間による手法を導入する。

{memo}

産業系施設

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
プラザ町田、町田新産業創造センター、町田ターミナルプラザ	<p>○民間活力を導入することによって、より多くの起業家の創出や、若い世代が活躍する魅力的な機会や場を創出します。</p> <p>○現状にとらわれずに機能を見直していくことによって、収益増加を図るとともに、賑わいや交流を創出します。</p>

現状の課題	今後の方向性
<p>産業系施設は町田駅周辺に集中しています。それぞれの施設が周辺環境や社会ニーズの変化に対応していく必要があります。町田ターミナルプラザのターミナルエイト（店舗）は、さらなる活用が課題であり、ターミナルでは、観光バスの利用台数が減少していることから利用台数に見合った運営体制の構築などが課題となっています。プラザ町田（町田市文化交流センター）については、貸し館機能を保有している施設は公共・民間ともに多くあること、稼働率はほとんどの部屋が5割程度であることから抜本的な見直しが必要です。町田新産業創造センターについては、創業を希望する方がより創業しやすい環境作りが課題となっています。</p>	<p>✓ 町田新産業創造センターの建物を建替える際には、民間活力の導入を進めるとともに、他の産業支援機能等と複合化する。</p> <p>✓ プラザ町田（町田市文化交流センター）は、中心市街地全体の貸し会議室機能の需要動向を見ながら、廃止も含めた抜本的な見直しを行い、収益増加を図る。</p> <p>✓ 町田ターミナルプラザは、空き店舗の用途変更も含めた活用や観光バスの利用台数に見合った運営体制の構築など収支のバランスを取る。建替えの際には、民間活用を含めた検討を行う。</p>

{memo}

駐車場・自転車等駐車場

施設例	将来イメージ〔ねらい〕
自転車等駐車場（10）、駐車場	

現状の課題	今後の方向性
<p>原町田一丁目駐車場については、都市計画施設に位置づけられていますが、1998年をピークに利用台数および利用料金収入が減っていること、民間の駐車場が周辺に増加していることから、運営の見直しが課題です。市内に10ヶ所ある自転車等駐車場は、利用が増加しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 運営費のコストダウン及び収益増加を図る。 ✓ 施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持・管理まで含めた民間活用を検討する。 ✓ 市で建替えをする際には、需要に見合った延床面積とする。

〔memo〕